

(19)日本国特許庁(JP)

(12)特許公報(B2)

(11)特許番号
特許第7186992号
(P7186992)

(45)発行日 令和4年12月12日(2022.12.12)

(24)登録日 令和4年12月2日(2022.12.2)

(51)国際特許分類

F I

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

A 6 3 F 7/02 3 0 4 D

請求項の数 1 (全21頁)

(21)出願番号	特願2017-186235(P2017-186235)	(73)特許権者	599104196
(22)出願日	平成29年9月27日(2017.9.27)		株式会社サンセイアールアンドディ
(65)公開番号	特開2019-58439(P2019-58439A)		愛知県名古屋市中区丸の内2丁目11番
(43)公開日	平成31年4月18日(2019.4.18)		13号
審査請求日	令和2年9月11日(2020.9.11)	(74)代理人	100112472
			弁理士 松浦 弘
		(74)代理人	100202223
			弁理士 軸見 可奈子
		(72)発明者	平野 泰弘
			愛知県名古屋市中区丸の内二丁目11番
			13号 株式会社サンセイアールアンド
			ディ内
		(72)発明者	稲垣 忠
			愛知県名古屋市中区丸の内二丁目11番
			13号 株式会社サンセイアールアンド
			最終頁に続く

(54)【発明の名称】 遊技機

(57)【特許請求の範囲】

【請求項1】

複数の装飾部を遊技盤の前面に沿って並べて備える複合装飾部材を移動させて演出を行う遊技機であって、

前記複合装飾部材の移動に伴い、前記複数の装飾部のうちの何れかの前記装飾部である特別装飾部以外の複数の前記装飾部が並び列を保ったまま移動する一方で、前記特別装飾部が前記特別装飾部以外の前記複数の装飾部の列からズレて移動する遊技機。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、遊技機に関する。

【背景技術】

【0002】

特許文献1には、装飾部材を有する遊技機が示されている。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【文献】 特開2017-029789号(段落[0022]、図4,7)

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【 0 0 0 5 】

装飾部材による演出の趣向性の向上を図ることが可能な遊技機の提供を目的とする。

【課題を解決するための手段】

【 0 0 0 6 】

第 1 の手段は、複数の装飾部を遊技盤の前面に沿って並べて備える複合装飾部材を移動させて演出を行う遊技機であって、前記複合装飾部材の移動に伴い、前記複数の装飾部のうちの何れかの前記装飾部である特別装飾部以外の複数の前記装飾部が並び列を保ったまま移動する一方で、前記特別装飾部が前記特別装飾部以外の前記複数の装飾部の列からズレて移動する遊技機である。

【発明の効果】

10

【 0 0 0 7 】

上記発明によれば、合体状態における装飾部材の外観不良を抑制可能となる。

【図面の簡単な説明】

【 0 0 0 8 】

【図 1】第 1 実施形態に係る遊技機の正面図

【図 2】遊技盤の正面図

【図 3】機構枠の正面図

【図 4】下部可動役物ユニットの斜視図

【図 5】下部固定ベースの前壁を後側から見た斜視図

【図 6】(A) 第 1 回転位置に配置された回転アームと第 1 移動部材を模式的に示した図、(B) 第 2 回転位置に配置された回転アームと第 1 移動部材を模式的に示した図

20

【図 7】(A) 第 1 回転位置に配置された回転アームと第 2 移動部材を模式的に示した図、(B) 第 2 回転位置に配置された回転アームと第 2 移動部材を模式的に示した図

【図 8】下部可動役物が前進位置に配置されたときの遊技盤の正面図

【図 9】上部可動役物ユニットの正面図

【図 10】上部可動役物ユニットからベースプレートを除いた部分の背面図

【図 11】(A) 第 1 回動部材が待機位置に配置されたときの上部可動役物ユニットを模式的に示す正面図、(B) 上部可動役物ユニットの構成を模式的に示す底面図

【図 12】第 1 回動部材が演出位置に配置されたときの上部可動役物ユニットを模式的に示す正面図

30

【図 13】第 2 回動部材が重なり位置に配置されたときの第 1 回動部材の内部構造を示す断面図

【図 14】第 2 回動部材が展開位置に配置されたときの第 1 回動部材の内部構造を示す断面図

【図 15】第 2 回動部材が重なり位置に配置されたときの扇状ギアとラックの配置を示す断面図

【図 16】第 2 回動部材が展開位置に配置されたときの扇状ギアとラックの配置を示す断面図

【図 17】左側装飾部材と右側装飾部材の背面図

【図 18】連動演出が行われているときの遊技盤の正面図

40

【図 19】連動演出を行う上部可動役物ユニットと下部可動役物ユニットを模式的に表した(A) 正面図、(B) 背面図

【発明を実施するための形態】

【 0 0 0 9 】

〔第 1 実施形態〕

図 1 に示されるように、本実施形態の遊技機 10 は、パチンコ遊技機であって、前側が前面枠 10Z にて覆われており、その前面枠 10Z に形成されたガラス窓 10W を通して図 2 に示される遊技盤 11 の遊技領域 R1 が視認可能になっている。なお、以下の説明において、特記しない限り「右」及び「左」とは、遊技機 10 を前方から見た場合の「右」及び「左」を指すものとする。

50

【 0 0 1 0 】

図 1 に示されるように、前面枠 1 0 Z のうちガラス窓 1 0 W より下方には、上皿 2 6 と下皿 2 7 が上下 2 段にして設けられ、下皿 2 7 の右側には発射用ハンドル 2 8 が設けられている。発射用ハンドル 2 8 を回転操作すると、上皿 2 6 に収容された遊技球が遊技領域 R 1 に向けて弾き出される。

【 0 0 1 1 】

図 2 に示されるように、遊技領域 R 1 は全体が略円形状となっていて、ガイドレール 1 2 により囲まれている。遊技盤 1 1 のうち遊技領域 R 1 の中央には、表示開口 1 1 H が貫通形成され、この表示開口 1 1 H を通して、表示装置 1 3 の表示画面 1 3 G が視認可能となっている。

10

【 0 0 1 2 】

表示開口 1 1 H の開口縁には、表示装飾枠 2 3 が取り付けられている。表示装飾枠 2 3 は、遊技盤 1 1 の前面側から表示開口 1 1 H に嵌め込まれ、遊技盤 1 1 の前面から突出して遊技領域 R 1 を流下する遊技球が表示装飾枠 2 3 の内側に進入することを規制している。

【 0 0 1 3 】

遊技領域 R 1 のうち表示装飾枠 2 3 の下方における左右方向の中央部には、センター始動入賞口 1 4 A 及びアウト口 1 6 が、上から順に並べて設けられている。センター始動入賞口 1 4 A は、ポケット構造をなし、その上面の開口部に遊技球が入球すると特別図柄当否判定が行われて、その特別図柄当否判定の結果が表示画面 1 3 G にて表示される。

【 0 0 1 4 】

表示装飾枠 2 3 の右側には、始動ゲート 1 8 が設けられると共に、表示装飾枠 2 3 の右辺部のうち始動ゲート 1 8 より下方位置には、サイド始動入賞口 1 4 B が形成されている。始動ゲート 1 8 は、遊技球が潜って通過可能な門形構造をなし、遊技球が始動ゲート 1 8 を通過すると普通図柄当否判定が行われる。また、サイド始動入賞口 1 4 B は、右側に開口し、可動片 1 4 H によって開閉される。具体的には、可動片 1 4 H は、通常は、鉛直に起立した閉位置に配置され、上述の普通図柄当否判定の結果が当たりとなったことを条件にして、下端部を中心に回転し、横倒しとなった開位置（図 2 に示される位置）に配置される。開位置に配置された可動片 1 4 H は、上方から流下する遊技球を受け止めてサイド始動入賞口 1 4 B へと案内する。センター始動入賞口 1 4 A と同様に、サイド始動入賞口 1 4 B に遊技球が入球したときも、特別図柄当否判定が行われ、その結果が表示画面 1 3 G にて表示される。

20

【 0 0 1 5 】

表示装飾枠 2 3 の右下には、左下がりに傾斜し且つ複数の球落下口 2 5 A を有した傾斜誘導部 2 5 が形成されている。傾斜誘導部 2 5 は、表示装飾枠 2 3 の右側に形成された右側流下路 2 4 R を流下してきた遊技球を受け止めて左側へと誘導し、球落下口 2 5 A から遊技球を落下させる。なお、本実施形態では、傾斜誘導部 2 5 は、複数の釘を列状に並べて構成される道釘と、樹脂ブロック 1 9 の上面 1 9 J とで構成されている。

【 0 0 1 6 】

本実施形態では、傾斜誘導部 2 5 に設けられた球落下口 2 5 A が 2 つとなっている。そして、左側の球落下口 2 5 A の下方に、第 1 大入賞部 3 1 の第 1 大入賞口 3 1 K と第 2 大入賞部 3 2 の第 2 大入賞口 3 2 K が上下に並べて設けられている。また、右側の球落下口 2 5 A の下方には、遊技球を受け入れて第 2 大入賞口 3 2 K より下方に流下させる迂回路 2 5 U が設けられている。

30

【 0 0 1 7 】

第 1 大入賞口 3 1 K は、横長矩形状をなして前方に開放し、第 1 開閉扉 3 1 T によって開閉される。第 1 開閉扉 3 1 T は、第 1 大入賞口 3 1 K の下辺部を中心にして回転可能となっていて、通常は、略鉛直に起立した起立姿勢に保持されて、第 1 大入賞口 3 1 K を閉塞している。第 2 大入賞口 3 2 K は、第 1 大入賞口 3 1 K より幅広な横長矩形状をなして前方に開放し、第 2 開閉扉 3 2 T によって開閉される。第 2 開閉扉 3 2 T は、第 2 大入賞口 3 2 K の下辺部を中心にして回転可能となっていて、通常は、略鉛直に起立した起立姿

40

50

勢に保持されて、第2大入賞口32Kを閉塞している。なお、第1大入賞口31Kと第2大入賞口32Kとは、右辺部が揃えて配置されている。

【0018】

第1大入賞口31Kと第2大入賞口32Kは、上述した特別図柄当否判定の結果が当たりとなったことを条件にして行われる大当り遊技の実行中に開放される。具体的には、大当り遊技が実行されると、第1開閉扉31Tと第2開閉扉32Tの何れか一方が、所定期間（例えば、10秒）に亘って前方に倒れる。これにより、第1大入賞口31Kと第2大入賞口32Kの何れか一方に遊技球が入球可能となる。ここで、何れか一方の大入賞口31K、32Kを入賞可能状態（所定期間内に繰り返し行われる開閉動作も含む）としてから入賞不可状態とするまでの（開放状態から閉塞状態までの）動作を「ラウンド」と称すると、1回の大当り遊技は、所定回数（例えば、16ラウンド）のラウンドが実行されるまで継続する。1回のラウンドは、大入賞口31K、32Kの開放時間が予め設定された上限時間に達するか、又は、規定上限数（例えば、10個）の遊技球が入賞すると終了する。なお、本実施形態では、第1大入賞口31Kは、所定のラウンド（例えば、3ラウンド目）で開放される。

10

【0019】

図2に示されるように、遊技領域R1には、遊技球が入球可能な一般入賞口21が複数設けられている。一般入賞口21は、センター始動入賞口14Aと同様に、ポケット構造をなし、遊技球を受け入れ可能となっている。詳細には、一般入賞口21は、遊技領域R1における左下部分とサイド始動入賞口14Bの右側に配置されている。なお、センター始動入賞口14A、サイド始動入賞口14B、第1大入賞口31K、第2大入賞口32K及び一般入賞口21の何れかに遊技球が入球すると、各入賞口に対応して設定された所定数の賞球が上皿26に払い出される。また、上記の何れの入賞口にも入球しなかった遊技球は、遊技領域R1の下端に配置されたアウト口16に取り込まれる。

20

【0020】

遊技盤11の裏側には、図3に示される機構枠17が備えられている。機構枠17には、下部可動役物ユニット100及び上部可動役物ユニット200を含む種々の部品が固定されている。なお、機構枠17の内側の開口部17Aは、遊技盤11の表示開口11H（図2参照）に重ねられて、表示装置13の表示画面13Gを視認可能とする。

【0021】

[下部可動役物ユニット100]

図4に示されるように、下部可動役物ユニット100は、機構枠17の下辺部に固定される下部固定ベース101に、下部可動役物100Yと、下部可動役物100Yを下部固定ベース101に対して移動させる下部駆動機構130と、を取り付けた構成になっている。本実施形態では、下部可動役物100Yは、第1移動部材110と第2移動部材120の2つの移動部材からなる。

30

【0022】

下部固定ベース101は、上部に開口101Kを有するケース状に形成され、第1移動部材110と第2移動部材120を内部に収容可能に構成されている。下部固定ベース101の前壁102の左右方向の中間部には、右側を後側に引っ込ませる段差部102Dが設けられている。前壁102のうち段差部102Dより右側の後側引込部位103に下部駆動機構130が固定され、前壁102のうち段差部102Dより左側の前側迫出部位104の前面に装飾プレート105が重ねて固定されている。

40

【0023】

図5に示されるように、第1移動部材110及び第2移動部材120は、前後に扁平な板状をなし、下部固定ベース101の内部に収容された状態で前壁102の前側迫出部位104に後側から重ねられている。具体的には、前側迫出部位104の後ろに第1移動部材110が重ねられ、第1移動部材110の後ろに第2移動部材120が重ねられる。なお、前壁102の段差部102Dは左下がりに傾斜し（下部固定ベース101を後側から見た図5では、右下がりに傾斜している。）、第1移動部材110及び第2移動部材12

50

0 は段差部 1 0 2 D に沿って配置されている。

【 0 0 2 4 】

図 6 (A) , (B) には、前壁 1 0 2 と第 1 移動部材 1 1 0 を後側から見た図が示されている。また、図 7 (A) , (B) では、前壁 1 0 2 と第 1 移動部材 1 1 0 と第 2 移動部材 1 2 0 を後側から見た図が示されている。図 6 (A) , (B) , 7 (A) , (B) では、各部材同士の区別を容易にするために、第 1 移動部材 1 1 0 が灰色で示されている。

【 0 0 2 5 】

図 6 (A) , (B) に示されるように、前壁 1 0 2 の後面には、段差部 1 0 2 D と同様に左下がりに傾斜した第 1 直動ガイド孔 1 0 6 が設けられている。第 1 直動ガイド孔 1 0 6 は対をなして設けられ、一方の第 1 直動ガイド孔 1 0 6 は後側引込部位 1 0 3 に形成され、他方の第 1 直動ガイド孔 1 0 6 は前側迫出部位 1 0 4 に形成されている。

10

【 0 0 2 6 】

図 6 (A) に示されるように、第 1 移動部材 1 1 0 は、縦長長方形形状をなすベース部 1 1 1 と、ベース部 1 1 1 から側方に突出した側方張出部 1 1 2 と、ベース部 1 1 1 の前面に重ねて固定された装飾プレート 1 1 5 (図 4 , 5 参照) と、を備えている。なお、装飾プレート 1 1 5 には、装飾プレート 1 0 5 と同様の装飾が施されている。

【 0 0 2 7 】

ベース部 1 1 1 は前壁 1 0 2 の前側迫出部位 1 0 4 に重ねられ、側方張出部 1 1 2 は前壁 1 0 2 の後側引込部位 1 0 3 に後側から重ねられる。そして、ベース部 1 1 1 の一辺が段差部 1 0 2 D に沿って配置されている。ベース部 1 1 1 の下端部には、前側迫出部位 1 0 4 に設けられた第 1 直動ガイド孔 1 0 6 と係合して第 1 直動ガイド孔 1 0 6 に沿って移動するスライダ 1 1 3 が固定されている。また、側方張出部 1 1 2 の下端部には、後側引込部位 1 0 3 に設けられた第 1 直動ガイド孔 1 0 6 と係合して第 1 直動ガイド孔 1 0 6 に沿って移動するスライダ 1 1 4 が固定されている。

20

【 0 0 2 8 】

ベース部 1 1 1 には、第 1 直動ガイド孔 1 0 6 と略平行に延びる第 2 直動ガイド孔 1 1 6 が設けられている。第 2 直動ガイド孔 1 1 6 は、前側迫出部位 1 0 4 に設けられた第 1 直動ガイド孔 1 0 6 を幅方向に挟むように対をなして設けられている。また、側方張出部 1 1 2 の上端寄り部分には、第 1 直動ガイド孔 1 0 6 と直交する方向に沿って延びる第 1 長孔 1 1 7 が形成されている。

30

【 0 0 2 9 】

図 5 , 7 (A) に示されるように、第 2 移動部材 1 2 0 は、長方形形状をなすベース部 1 2 1 の上側部分の前面に装飾プレート 1 2 5 が重ねて固定されてなり、第 1 移動部材 1 1 0 のベース部 1 1 1 に重ねられている。なお、装飾プレート 1 2 5 には、装飾プレート 1 1 5 と同様の装飾が施されている。

【 0 0 3 0 】

第 2 移動部材 1 2 0 のベース部 1 2 1 の下端部には、第 1 移動部材 1 1 0 に設けられた 1 対の第 2 直動ガイド孔 1 1 6 , 1 1 6 と係合してそれら 1 対の第 2 直動ガイド孔 1 1 6 に沿って移動する 1 対のスライダ 1 2 2 , 1 2 2 が固定されている。また、ベース部 1 2 1 の下端部には、第 2 直動ガイド孔 1 1 6 と直交する方向に沿って延びる第 2 長孔 1 2 7 が形成されている。

40

【 0 0 3 1 】

図 4 , 5 に示されるように、下部駆動機構 1 3 0 は、回転駆動源 1 3 1 と、回転駆動源 1 3 1 によって回転駆動される回転アーム 1 3 2 と、回転駆動源 1 3 1 からの動力を回転アーム 1 3 2 に伝達する複数の動力伝達ギア 1 3 3 と、を備えている。回転アーム 1 3 2 は、下部固定ベース 1 0 1 の前壁 1 0 2 に後側から重ねられて前壁 1 0 2 の後側引込部位 1 0 3 に回転可能に支持されている。回転アーム 1 3 2 は、通常は、回転軸部 1 3 2 J から水平方向に沿って左側、即ち、前側迫出部位 1 0 4 側へと延びた第 1 回転位置 (図 7 (A) 参照) に配置され、回転駆動源 1 3 1 によって駆動されると、回転軸部 1 3 2 J から左斜め上側へ延びた第 2 回転位置 (図 7 (B) 参照) に配置される。

50

【 0 0 3 2 】

図 6 (A) に示されるように、回転アーム 1 3 2 の中間部には、第 1 移動部材 1 1 0 の側方張出部 1 1 2 に設けられた第 1 長孔 1 1 7 と係合する第 1 係合突起 1 3 4 が形成されている。また、図 7 (A) に示されるように、回転アーム 1 3 2 の先端部には、第 2 移動部材 1 2 0 のベース部 1 2 1 に設けられた第 2 長孔 1 2 7 と係合する第 2 係合突起 1 3 5 が形成されている。

【 0 0 3 3 】

図 6 (A) から図 6 (B) への変化に示されるように、回転アーム 1 3 2 が第 1 回転位置から第 2 回転位置へと回転すると、回転アーム 1 3 2 の中間部に設けられた第 1 係合突起 1 3 4 が第 1 移動部材 1 1 0 の第 1 長孔 1 1 7 の内面を押し上げ、第 1 移動部材 1 1 0 が 1 対の第 1 直動ガイド孔 1 0 6 , 1 0 6 に沿って上側へと移動する。このとき、図 7 (A) から図 7 (B) への変化に示されるように、回転アーム 1 3 2 の先端部に設けられた第 2 係合突起 1 3 5 が第 2 移動部材 1 2 0 の第 2 長孔 1 2 7 の内面を押し上げる。ここで、第 2 係合突起 1 3 5 は第 1 係合突起 1 3 4 よりも回転アーム 1 3 2 の先端側に設けられているので、第 1 係合突起 1 3 4 が第 1 移動部材 1 1 0 を持ち上げる量よりも第 2 係合突起 1 3 5 が第 2 移動部材 1 2 0 を持ち上げる量の方が大きくなる。従って、第 2 移動部材 1 2 0 は、第 1 移動部材 1 1 0 の 1 対の第 2 直動ガイド孔 1 1 6 , 1 1 6 に沿って上側に移動する。そして、回転アーム 1 3 2 が第 2 回転位置に配置されると、下部固定ベース 1 0 1 から第 1 移動部材 1 1 0 が上方に突出し、第 1 移動部材 1 1 0 に対して第 2 移動部材 1 2 0 が上方に突出する (図 7 (B) 参照) 。

【 0 0 3 4 】

このように、本実施形態の遊技機 1 0 では、回転駆動源 1 3 1 (図 4 参照) の駆動によって第 1 移動部材 1 1 0 と第 2 移動部材 1 2 0 とからなる下部可動役物 1 0 0 Y が上下方向に対して斜めに移動する。そして、下部可動役物 1 0 0 Y は、図 3 に示される後退位置と図 8 に示される前進位置との間を移動する。下部可動役物 1 0 0 Y が前進位置に配置されると、下部固定ベース 1 0 1 に固定された装飾プレート 1 0 5 と、第 1 移動部材 1 1 0 に固定された装飾プレート 1 1 5 と、第 2 移動部材 1 2 0 に固定された装飾プレート 1 2 5 と、が直線状に並び、1 つの棒状の意匠を構成する (図 8 では、装飾プレート 1 0 5 , 1 1 5 , 1 2 5 が灰色で示されている。) 。なお、図 3 に示されるように、後退位置に配置された下部可動役物 1 0 0 Y と装飾プレート 1 0 5 は、下部カバー部材 1 0 7 に前側を覆われて、視認困難となっている。下部カバー部材 1 0 7 は、下部可動役物 1 0 0 Y の前進位置への移動に連動して、装飾プレート 1 0 5 を露出させるように移動する (図 8 参照) 。

【 0 0 3 5 】

[上部可動役物ユニット 2 0 0]

図 9 ~ 1 1 に示されるように、上部可動役物ユニット 2 0 0 は、機構枠 1 7 の上辺部に固定される上部固定ベース 2 0 1 と、上部固定ベース 2 0 1 に支持されて遊技盤 1 1 の前面に沿って回動可能な第 1 回動部材 2 1 0 と、第 1 回動部材 2 1 0 に支持されて遊技盤 1 1 の前面に沿って回動可能な第 2 回動部材 2 2 0 と、上部固定ベース 2 0 1 に支持されて第 1 回動部材 2 1 0 及び第 2 回動部材 2 2 0 を前側から覆うカバー部材 2 5 0 と、備えている。

【 0 0 3 6 】

図 1 1 (A) , (B) に示されるように、上部固定ベース 2 0 1 は、横長矩形状をなすベースプレート 2 0 2 に第 1 回動部材 2 1 0 を駆動するための駆動源 2 1 0 K を固定して備える。詳細には、ベースプレート 2 0 2 の左右方向の中間部には、凹部 2 0 2 A (図 1 1 (B) 参照) が設けられていて、駆動源 2 1 0 K はベースプレート 2 0 2 のうち凹部 2 0 2 A よりも右側の部位 2 0 3 (以下、ベース右側部位 2 0 3 という。) の後面に取り付けられている。ベース右側部位 2 0 3 の前面には、駆動源 2 1 0 K によって駆動される駆動レバー 2 0 6 が回轉可能に取り付けられている。駆動レバー 2 0 6 は、通常は、回動軸部 2 0 6 J (図 1 0 参照) から左斜め上方へと延びる第 1 レバー位置 (図 1 0 に示される

10

20

30

40

50

駆動レバー 206 の位置) に配置され、駆動源 210 K により駆動されて回動軸部 206 J から左斜め下方へと延びる第 2 レバー位置 (図示せず) に配置される。凹部 202 A の奥面には、上部装飾プレート 205 ((図 11 (B) , 19 (A) 参照)) が重ねて固定されている。なお、駆動レバー 206 は、第 1 レバー位置に配置されたときに、上部装飾プレート 205 に前側から重なる。

【0037】

ベースプレート 202 のうち凹部 202 A よりも左側の部位 (以下、ベース左側部位 204 という。) には、第 1 回動部材 210 とカバー部材 250 が取り付けられている。ベース左側部位 204 の左端部からは、第 1 回動部材 210 及びカバー部材 250 を左側方から覆うカバー突部 207 が突出している。

10

【0038】

図 10 , 11 (A) に示されるように、第 1 回動部材 210 は、横長の雲形をなす平板状に形成され、その左側端部 (第 1 回動部材 210 を後側から見た図 10 では右側の端部) にベースプレート 202 の左上部に支持された回動軸部 210 J を有している。また、第 1 回動部材 210 の後面には、駆動レバー 206 に形成された長孔 206 N と係合するスライダ 211 (図 10 参照) が固定されている。そして、この長孔 206 N とスライダ 211 の係合によって、第 1 回動部材 210 は、駆動レバー 206 からの動力を受けて回動軸部 210 J を中心に回動可能となっている。なお、第 1 回動部材 210 は、通常は、回動軸部 210 J から右側へ延びてベースプレート 202 に固定された上部装飾プレート 205 を前側から覆う待機位置 (図 9 , 11 (A)) に配置され、所定の演出条件が成立したときに、回動軸部 210 J から右斜め下方へ延びて上部装飾プレート 205 を視認可能にする演出位置 (図 12 , 19 (A)) に配置される。

20

【0039】

図 10 に示されるように、第 1 回動部材 210 の後面には、係止フック 212 が設けられている。係止フック 212 には、上下方向に沿って延びる引張りバネ 213 の下端が引っ掛けられている。引張りバネ 213 の上端は、上部固定ベース 201 の前面に設けられた図示しない係止フックに引っ掛けられている。そして、引張りバネ 213 によって第 1 回動部材 210 は、上側に付勢されている。

【0040】

図 11 (A) , (B) に示されるように、第 2 回動部材 220 は、第 1 回動部材 210 よりも短い横長の雲形をなす平板状に形成され、第 1 回動部材 210 の右側部分に前側から重ねられている。そして、第 2 回動部材 220 は、その右側端部に第 1 回動部材 210 に支持された回動軸部 220 J (図 11 (B) , 13 参照) を有している。第 2 回動部材 220 は、第 1 回動部材 210 の回動に連動して、第 1 回動部材 210 に対し回動軸部 220 J を中心に回動する。

30

【0041】

具体的には、図 13 に示されるように、第 2 回動部材 220 は、中継リンク 230 にも回動可能に支持されている。中継リンク 230 は、ベースプレート 202 の左側部に回転自在に支持され、回転中心 230 C から右側へ延びて第 1 回動部材 210 を貫通している。そして、中継リンク 230 の先端部に、第 2 回動部材 220 が回動可能に支持されている。ここで、中継リンク 230 の回転中心 230 C は、第 1 回動部材 210 の回動軸部 210 J からずれた位置に配置されている。また、第 2 回動部材 220 のうち中継リンク 230 との連結部位 234 は、第 2 回動部材 220 の回動軸部 220 J とは異なる位置に配置されている。

40

【0042】

図 13 から図 14 への変化に示されるように、第 1 回動部材 210 が待機位置から演出位置へ回動すると、第 1 回動部材 210 に支持された第 2 回動部材 220 の回動軸部 220 J も第 1 回動部材 210 の回動軸部 210 J の回りに回動する。このとき、第 2 回動部材 220 における回動軸部 220 J と連結部位 234 との間隔及び中継リンク 230 の回転中心 230 C と連結部位 234 との間隔は一定となっているので、回動軸部 220 J と

50

連結部位 234 を結ぶ直線 L1 と連結部位 234 と中継リンク 230 の回転中心 230C を結ぶ直線 L2 とがなす角度を変化させるように、中継リンク 230 が回転中心 230C を中心に回転し、第 2 回動部材 220 が回動軸部 220J を中心に回動する。その結果、本実施形態の遊技機 10 では、第 1 回動部材 210 が待機位置に配置されたときに、第 2 回動部材 220 が第 1 回動部材 210 に重ねられた重なり位置（図 11（A），13 参照）に配置され、第 1 回動部材 210 が演出位置に配置されたときに、第 2 回動部材 220 は、その左側部分が第 1 回動部材 210 に対して下側にずれた展開位置（図 12，14 参照）に配置される。

【0043】

図 9，11（A），（B），12 に示されるように、第 2 回動部材 220 の前面には、中央装飾部材 225 が回転可能に取り付けられている。中央装飾部材 225 は、第 2 回動部材 220 が第 1 回動部材 210 に対して回動するときに、その回動に連動して回転する。

10

【0044】

具体的には、中央装飾部材 225 は、装飾部本体 225A の右下隅部から張出部 225B が張り出した構造になっていて（図 12 参照）、装飾部本体 225A が第 2 回動部材 220 の左側部分に前側から重ねられている。張出部 225B には、第 2 回動部材 220 の長手方向の中間部に支持される回動軸部 225J が備えられている。図 15 に示されるように、回動軸部 225J には、外側に半円状に張り出した扇状ギア 226 が一体に形成されていて、この扇状ギア 226 が第 1 回動部材 210 に設けられたラック 227 と噛合している。ラック 227 は、第 2 回動部材 220 の回動軸部 220J を中心とする円弧状に形成されている。そして、図 16 に示されるように、第 2 回動部材 220 が第 1 回動部材 210 に対して回動軸部 220J を中心に回動すると、扇状ギア 226 がラック 227 に対して移動すると共に回転し、中央装飾部材 225 が第 2 回動部材 220 に対して回動軸部 225J を中心に回動する。

20

【0045】

図 9，11，12 に示されるように、カバー部材 250 は、横長の支持ベース 251 の両端部に左側装飾部材 252 と右側装飾部材 253 を固定して備えている。支持ベース 251 は、左右方向に延在する天井壁の前端からカバー壁が垂下してなるフード部 251A と、フード部 251A から右側に延設されたアーム部 251B と、を備えている（図 9，11（A））。なお、アーム部 251B の右側の端部には、上部固定ベース 201 の右側部に備えられた係合突部 208 の係合溝 208A と係合することで、上部固定ベース 201 から前側に離れることを抑制する抜止片 251H が設けられている（図 11（B））。

30

【0046】

支持ベース 251 のフード部 251A は、上部固定ベース 201 のベースプレート 202 の左上部に回転自在に取り付けられている。このため、カバー部材 250 は、自重によって正面視時計方向に回転しようとする。この回転を抑制するため、カバー部材 250 のアーム部 251B には、図 9 に示される吊上げバネ 255 が取り付けられている。本実施形態では、カバー部材 250 の回転中心は、第 1 回動部材 210 の回動軸部 210J と同じ位置に配置されているが、異なる位置に配置されてもよい。なお、カバー部材 250 の回転は、アーム部 251B に設けられた抜止片 251H が係合溝 208A の内面のうち上側を向く面と当接することで規制されてもよい。この場合には、吊上げバネ 255 は、カバー部材 250 の衝撃を吸収する。

40

【0047】

図 9 に示されるように、吊上げバネ 255 は、上下方向に沿って延びる引張りバネで構成されている。吊上げバネ 255 の上端部は、上部固定ベース 201 のベースプレート 202 に固定され、吊上げバネ 255 の下端部は、アーム部 251B に固定されている。そして、吊上げバネ 255 は、カバー部材 250（詳細には、アーム部 251B）を上方に付勢して、カバー部材 250 の正面視時計方向への回転を抑制する。また、吊上げバネ 255 は、カバー部材 250 が下方から力を受けたときにカバー部材 250 が上方へ移動することを許容する。なお、吊上げバネ 255 のバネ定数は、上述した引張りバネ 213（

50

図 10 参照) のバネ定数よりも小さくなっている。

【 0048 】

図 11 (A) , 12 に示されるように、左側装飾部材 252 は、カバー部材 250 の支持ベース 251 の前面に固定された第 1 装飾部 252 A と、第 1 装飾部 252 A に対して遊技盤 11 の前面に沿って回動可能な第 2 装飾部 252 B と、で構成されている。第 2 装飾部 252 B は、第 1 装飾部 252 A に近接配置されて第 1 装飾部 252 A との間に隙間を形成しない近接位置 (図 11 (A) 参照) と、第 1 装飾部 252 A から離間して第 1 装飾部 252 A との間に隙間を形成する離間位置 (図 12 参照) と、に配置される。そして、第 2 装飾部 252 B が近接位置に配置されたときに左側装飾部材 252 が合体状態となり、第 2 装飾部 252 B が離間位置に配置されたときに左側装飾部材 252 が分離状態となる。

10

【 0049 】

図 11 (A) , 12 に示されるように、右側装飾部材 253 は、左側装飾部材 252 と同様に、カバー部材 250 の支持ベース 251 の前面に固定された第 1 装飾部 253 A と、第 1 装飾部 253 A に対し遊技盤 11 の前面に沿って回動可能な第 2 装飾部 253 B と、で構成されている。第 2 装飾部 253 B は、第 1 装飾部 253 A に近接配置されて第 1 装飾部 253 A との間に隙間を形成しない近接位置 (図 11 (A) 参照) と、第 1 装飾部 253 A から離間して第 1 装飾部 253 A との間に隙間を形成する離間位置 (図 12 参照) と、に配置される。そして、第 2 装飾部 253 B が近接位置に配置されたときに右側装飾部材 253 が合体状態となり、第 2 装飾部 253 B が離間位置に配置されたときに右側装飾部材 253 が分離状態となる。

20

【 0050 】

詳細には、左側装飾部材 252 は、合体状態で正面視略長形状をなし、第 2 装飾部 252 B は、正面視略三角形形状をなして合体状態の左側装飾部材 252 の右下隅部を構成する。また、右側装飾部材 253 は、合体状態で正面視略長形状をなし、第 2 装飾部 253 B は、正面視略三角形形状をなして合体状態の右側装飾部材 253 の左下隅部を構成する。なお、左側装飾部材 252 と右側装飾部材 253 は共に、合体状態のときに、全体として 1 つの意匠 (例えば、文字、図形、模様又はそれらの組合せ) を構成し、分離状態になると、その意匠が分割された態様となる。

【 0051 】

30

本実施形態では、左側装飾部材 252 の第 2 装飾部 252 B が第 1 装飾部 252 A に対して回転自在に取り付けられていて、第 2 装飾部 252 B は、第 1 回動部材 210 が待機位置に配置されたときに近接位置に配置され、第 1 回動部材 210 が演出位置に配置されたときに離間位置に配置される (図 11 (A) , 12 参照)。具体的には、第 1 回動部材 210 の下縁部の前面には、第 1 回動部材 210 が待機位置に配置されたときに第 2 装飾部 252 B を下方から受け止め可能な支持突起 217 (図 11 (B) 参照) が形成されている。そして、第 1 回動部材 210 が演出位置に配置されると、支持突起 217 による第 2 装飾部 252 B の受け止めが解除され、第 2 装飾部 252 B が自重により回動軸部 252 J (図 17 参照) を中心に回動して離間位置に配置される。

【 0052 】

40

ここで、図 17 に示されるように、左側装飾部材 252 の第 2 装飾部 252 B には、第 2 装飾部 252 B が近接位置に配置された状態で第 2 装飾部 252 B の回動軸部 252 J から第 1 装飾部 252 A 側に張り出す当接突片 252 T が設けられている。この当接突片 252 T は、第 2 装飾部 252 B が離間位置へ向かって回動するときに、第 1 装飾部 252 A に設けられた当接規制壁 252 H と当接することで第 2 装飾部 252 B の回動を規制する。これにより、支持突起 217 による受け止めが解除された第 2 装飾部 252 B が離間位置 (図 12 参照) に位置決めされ、分離状態の左側装飾部材 252 の外観の安定化が図られる。

【 0053 】

第 1 回動部材 210 が演出位置から待機位置へ回動すると、離間位置に配置された第 2

50

装飾部 2 5 2 B に支持突起 2 1 7 が下方から当接して第 2 装飾部 2 5 2 B を押し上げる。そして、支持突起 2 1 7 によって押し上げられた第 2 装飾部 2 5 2 B は、離間位置から近接位置に配置される。

【 0 0 5 4 】

また、本実施形態では、右側装飾部材 2 5 3 の第 2 装飾部 2 5 3 B が第 1 装飾部 2 5 3 A に対して回転自在に取り付けられていて、第 2 装飾部 2 5 3 B は、第 1 回動部材 2 1 0 が待機位置に配置されたときに近接位置に配置され、第 1 回動部材 2 1 0 が演出位置に配置されたときに離間位置に配置される（図 1 1（A），1 2 参照）。具体的には、第 2 装飾部 2 5 3 B の後面には、第 2 回動部材 2 2 0 に取り付けられた中央装飾部材 2 2 5（詳細には、張出部 2 2 5 B）と当接可能な当接突部 2 5 4 が形成されていて（図 1 1（B）参照）、第 1 回動部材 2 1 0 が待機位置に配置された状態で、中央装飾部材 2 2 5 が第 2 装飾部 2 5 3 B の当接突部 2 5 4 を下方から受け止める。そして、第 1 回動部材 2 1 0 が演出位置に配置されると、その第 1 回動部材 2 1 0 の移動に連動して第 2 回動部材 2 2 0 が回動し、その第 2 回動部材 2 2 0 の回動に伴って中央装飾部材 2 2 5 による当接突部 2 5 4 の受け止めが解除される。そして、第 2 装飾部 2 5 3 B が自重により回動軸部 2 5 3 J を中心に回動して離間位置に配置される。

10

【 0 0 5 5 】

ここで、図 1 7 に示されるように、右側装飾部材 2 5 3 の第 2 装飾部 2 5 3 B には、第 2 装飾部 2 5 3 B が近接位置に配置された状態で第 2 装飾部 2 5 3 B の回動軸部 2 5 3 J から第 1 装飾部 2 5 3 A 側に張り出す当接突片 2 5 3 T が設けられている。この当接突片 2 5 3 T は、第 2 装飾部 2 5 3 B が離間位置へ向かって回動するときに、第 1 装飾部 2 5 3 A に設けられた当接規制壁 2 5 3 H と当接することで第 2 装飾部 2 5 3 B の回動を規制する。これにより、中央装飾部材 2 2 5 による受け止めが解除された第 2 装飾部 2 5 3 B が離間位置（図 1 2 参照）に位置決めされ、分離状態の右側装飾部材 2 5 3 の外観の安定化が図られる。

20

【 0 0 5 6 】

第 1 回動部材 2 1 0 が演出位置から待機位置へ回動すると、離間位置に配置された右側装飾部材 2 5 3 の第 2 装飾部 2 5 3 B（詳細には、当接突部 2 5 4）に中央装飾部材 2 2 5 が下方から当接して第 2 装飾部 2 5 3 B を押し上げる。そして、中央装飾部材 2 2 5 によって押し上げられた第 2 装飾部 2 5 3 B は、離間位置から近接位置に配置される。

30

【 0 0 5 7 】

本実施形態では、左側装飾部材 2 5 2 の第 2 装飾部 2 5 2 B と右側装飾部材 2 5 3 の第 2 装飾部 2 5 3 B は共に、自重によって離間位置側に付勢されている。このため、左側装飾部材 2 5 2 と右側装飾部材 2 5 3 において、第 2 装飾部 2 5 2 B，2 5 3 B がずり落ちると、第 1 装飾部 2 5 2 A，2 5 3 B との間に隙間が生じて見栄えが悪くなるという問題が起こり得る。ここで、本実施形態の遊技機 1 0 では、第 1 回動部材 2 1 0 は、待機位置に配置された状態で、引張りバネ 2 1 3（図 1 0 参照）によって上側に付勢されている。そして、この引張りバネ 2 1 3 によって、左側装飾部材 2 5 2 の第 2 装飾部 2 5 2 B を下方から受け止める支持突起 2 1 7 が上側に付勢されると共に、右側装飾部材 2 5 3 の第 2 装飾部 2 5 3 B を下方から受け止める中央装飾部材 2 2 5 が上側に付勢されるので、第 2 装飾部 2 5 2 B，2 5 3 B のずり落ちが抑えられる。これにより、左側装飾部材 2 5 2 及び右側装飾部材 2 5 3 においては、合体状態で第 1 装飾部 2 5 2 A，2 5 3 A と第 2 装飾部 2 5 2 B，2 5 3 B の間に隙間が形成されることが抑えられ、各装飾部材 2 5 2，2 5 3 の外観不良が抑制される。

40

【 0 0 5 8 】

ここで、カバー部材 2 5 0 が上部固定ベース 2 0 1 に固定されて上下方向に移動不可能となっていると、第 1 回動部材 2 1 0 が演出位置から待機位置へ向かうときにカバー部材 2 5 0 を押し上げることができなくなる。そうすると、第 1 回動部材 2 1 0 が待機位置に配置されると同時に、左側装飾部材 2 5 2 と右側装飾部材 2 5 3 が合体状態となることが要求されるが、そのような要求は、第 1 回動部材 2 1 0、左側装飾部材 2 5 2 及び右側装

50

飾部材 2 5 3 の位置ずれを考慮すれば、現実的に不可能である。これに対し、本実施形態の遊技機 1 0 では、カバー部材 2 5 0 が吊上げバネ 2 5 5 によって上側への移動を許容されているので、第 1 回動部材 2 1 0 がカバー部材 2 5 0 を押し上げ可能となっている。これにより、遊技機 1 0 では、左側装飾部材 2 5 2 の第 2 装飾部 2 5 2 B と右側装飾部材 2 5 3 の第 2 装飾部 2 5 3 B を近接位置に配置してから更に押し上げることが可能となり、第 1 回動部材 2 1 0、左側装飾部材 2 5 2 及び右側装飾部材 2 5 3 に位置ずれが生じてても、左側装飾部材 2 5 2 と右側装飾部材 2 5 3 を確実に合体状態にすることが可能となる。しかも、吊上げバネ 2 5 5 のバネ定数は、引張りバネ 2 1 3 (図 1 0 参照) のバネ定数よりも小さくなっているため、第 1 装飾部 2 5 2 A、2 5 3 A と合体した第 2 装飾部 2 5 2 B、2 5 3 B を第 1 回動部材 2 1 0 と第 2 回動部材 2 2 0 によって更に上側へ押し上げる

10

【 0 0 5 9 】

また、本実施形態の遊技機 1 0 では、左側装飾部材 2 5 2 と右側装飾部材 2 5 3 に近接配置される中央装飾部材 2 2 5 が下方に移動する構成となっているので、それら装飾部材 2 2 5、2 5 2、2 5 3 による演出の趣向性の向上が図られる。しかも、中央装飾部材 2 2 5 は第 2 回動部材 2 2 0 に支持されているので、第 2 回動部材 2 2 0 が中央装飾部材 2 2 5 を左側装飾部材 2 5 2 及び右側装飾部材 2 5 3 に対して移動させるときに、それら装飾部材 2 5 2、2 5 3 を合体状態から分離状態に変化させることが可能となり、装飾部材 2 2 5、2 5 2、2 5 3 による演出の趣向性の更なる向上が図られる。

【 0 0 6 0 】

20

[下部可動役物ユニット 1 0 0 と上部可動役物ユニット 2 0 0 の連動演出]

図 1 8 に示されるように、遊技機 1 0 では、上部可動役物ユニット 2 0 0 による演出が下部可動役物ユニット 1 0 0 による演出と連動して行われる。具体的には、下部可動役物ユニット 1 0 0 の下部可動役物 1 0 0 Y が後退位置 (図 3 参照) から前進位置 (図 8 参照) にされたときに、上部可動役物ユニット 2 0 0 の第 1 回動部材 2 1 0 が待機位置 (図 1 1 (A) 参照) から演出位置 (図 1 2 参照) へと移動する。すると、図 1 9 (A)、(B) に示されるように、前進位置に配置された下部可動役物 1 0 0 Y における第 2 移動部材 1 2 0 の先端部 (上端部) とその先方領域とが上部可動役物ユニット 2 0 0 の第 1 回動部材 2 1 0 によって前側から覆われる。

【 0 0 6 1 】

30

図 1 8、1 9 (A) に示されるように、第 1 回動部材 2 1 0 が演出位置に配置されると、その第 1 回動部材 2 1 0 に前側を覆われていた上部装飾プレート 2 0 5 が露出する。なお、図 1 9 (B) に示されるように、演出位置に配置された第 1 回動部材 2 1 0 は、下部可動役物 1 0 0 Y と上部装飾プレート 2 0 5 の間の隙間を前側から覆う。

【 0 0 6 2 】

ここで、上述したように、下部可動役物 1 0 0 Y が前進位置に配置された状態では、下部固定ベース 1 0 1 (図 4 参照) に固定された装飾プレート 1 0 5 と、下部可動役物 1 0 0 Y の第 1 移動部材 1 1 0 及び第 2 移動部材 1 2 0 の前面に固定された装飾プレート 1 1 5 及び装飾プレート 1 2 5 と、が直線状に並び、1 つの棒状の意匠を構成する。また、上部装飾プレート 2 0 5 は、下部可動役物 1 0 0 Y の延長線上に配置され、上部装飾プレート 2 0 5 には、第 2 移動部材 1 2 0 の装飾プレート 1 2 5 と同様の装飾が施されている。なお、図 1 8、1 9 (A) では、装飾プレート 1 0 5、1 1 5、1 2 5、2 0 5 が灰色で示されることで、それら装飾プレート 1 0 5、1 1 5、1 2 5、2 0 5 が同様の装飾が施されていることを表している。

40

【 0 0 6 3 】

下部可動役物ユニット 1 0 0 と上部可動役物ユニット 2 0 0 による連動演出の説明は以上である。このように、本実施形態の遊技機 1 0 では、下部可動役物 1 0 0 Y が移動するのに加えて、下部可動役物 1 0 0 Y の一部が第 1 回動部材 2 1 0 に覆われるので、従来より趣向性の向上を図ることが可能となる。しかも、本実施形態では、下部可動役物ユニット 1 0 0 の下部可動役物 1 0 0 Y の先端 (第 2 移動部材 1 2 0 の先端) が第 1 回動部材 2

50

１０で覆われることで、下部可動役物１００Ｙの先端が実際の位置よりも先方まで延びているように見せることが可能となる（図１９（Ａ）参照）。その結果、下部可動役物１００Ｙを実際の長さよりも長く見せることが可能となり、遊技者にインパクトを与えることが可能となる。

【００６４】

しかも、下部可動役物１００Ｙの先端部（上端部）を隠す第１回動部材２１０は、待機位置に配置された状態でカバー部材２５０に前側を覆われて視認困難となっているので、第１回動部材２１０が出現したときに遊技者に意外性を付与することが可能となる。さらに、第１回動部材２１０は、カバー部材２５０の移動に伴って出現するので、第１回動部材２１０が単に出現する場合よりも趣向性の向上が図られる。

10

【００６５】

また、下部可動役物１００Ｙは、第１移動部材１１０と第２移動部材１２０を前後にずらして備え、後退位置に配置された状態で第１移動部材１１０と第２移動部材１２０を前後に重ねて配置し、前進位置に配置された状態で第１移動部材１１０と第２移動部材１２０を下部可動役物１００Ｙの移動方向にずらして配置する構成となっているので、後退位置に配置された下部可動役物１００Ｙの設置スペースをコンパクトにすることが可能となる。

【００６６】

また、遊技機１０では、下部可動役物１００Ｙが前進位置に配置され、第１回動部材２１０が演出位置に配置されたときに、下部可動役物１００Ｙの先端部を構成する装飾プレート１２５と同様の装飾が施された上部装飾プレート２０５が下部可動役物１００Ｙの延長線上に出現するので、下部可動役物１００Ｙが第１回動部材２１０を貫通しているかのように見せることが可能となる。しかも、上部装飾プレート２０５は、待機位置に配置された第１回動部材２１０の裏側に隠れるので、上部装飾プレート２０５の存在を分かり難くすることができる。

20

【００６７】

なお、本実施形態において、以下の構成としても、上述と同様の作用効果を奏することが可能である。

（１）吊上げバネ２５５のバネ定数が、引張りバネ２１３（図１０参照）のバネ定数よりも大きくてもよい。

30

【００６８】

（２）遊技機１０が、引張りバネ２１３の代わりに圧縮バネを備え、該圧縮バネの両端部がベースプレート２０２と第１回動部材２１０とに固定されることにより、第１回動部材２１０が上方に付勢される構成であってもよい。

【００６９】

（３）左側装飾部材２５２及び右側装飾部材２５３の第１装飾部２５２Ａ，２５３Ａに、当接規制壁２５２Ｈ，２５３Ｈが設けられていなくてもよく、また、左側装飾部材２５２及び右側装飾部材２５３の第２装飾部２５２Ｂ，２５３Ｂに当接突片２５２Ｔ，２５３Ｔが設けられなくてもよい。そして、第２装飾部２５２Ｂ，２５３Ｂは、自重によって落下した後は、第１装飾部２５２Ａ，２５３Ａとの連結部分にのみ支えられて、第１装飾部２５２Ａ，２５３Ａにぶら下がるような構成であってもよい。

40

【００７０】

（４）支持突起２１７が左側装飾部材２５２の第２装飾部２５２Ｂを押し上げるとき、支持突起２１７は、第２装飾部２５２Ｂの下端に当接して第２装飾部材２５２Ｂを押し上げてよいし、第２装飾部２５２Ｂに支持突起２１７と当接する当接突部を設けて、該当接突起に支持突起２１７が下方から当接して第２装飾部材２５２Ｂを押し上げてよい。

【００７１】

（５）右側装飾部材２５３の第２装飾部２５３Ｂの後面に、当接突部２５４が形成されていなくてもよく、例えば、中央装飾部材２２５が、第２装飾部２５２Ｂの下端部に下方から当接して第２装飾部２５２Ｂを押し上げる構成であってもよい。

50

【 0 0 7 2 】

(6) 右側装飾部材 2 5 3 の第 2 装飾部 2 5 3 B の当接突部 2 5 4 と当接する突部を第 1 回動部材 2 1 0 又は第 2 回動部材 2 2 0 に設けて、該突部が当接突部 2 5 4 と当接して第 2 装飾部 2 5 3 B を上方に押し上げる構成であってもよい。このとき、遊技機 1 0 が、中央装飾部材 2 2 5 のみを備えていなくてもよいし、中央装飾部材 2 2 5 と左側装飾部材 2 5 2 の両方を備えていなくてもよい。

【 0 0 7 3 】

(7) 遊技機 1 0 が、右側装飾部材 2 5 3 のみを備えていなくてもよいし、右側装飾部材 2 5 3 と中央装飾部材 2 2 5 の両方を備えていなくてもよい。

【 0 0 7 4 】

(8) カバー部材 2 5 0 が上部固定ベース 2 0 1 に固定されていてもよく、カバー部材 2 5 0 に、吊上げバネ 2 5 5 が取り付けられていなくてもよい。

【 0 0 7 5 】

< 付記 >

以下、上述した各実施の形態から抽出される発明群の特徴について、必要に応じて効果等を示しつつ説明する。なお、以下では、理解の容易のため、上記実施形態において対応する構成を括弧書き等で適宜示すが、この括弧書き等で示した具体的構成に限定されるものではない。

【 0 0 7 6 】

< 特徴 A 群 >

以下の特徴 A 群は、「装飾部材を有する」遊技機に関し、「特許文献 A (特開 2 0 1 7 - 0 2 9 7 8 9 号 (段落 [0 0 2 2]、図 4 , 7)) には、装飾部材を構成する 2 つの可動体の一方が他方に対して自重で落下移動する遊技機が示されている。」という背景技術について、「特許文献 A の遊技機では、2 つの可動体が合体した状態において、他方の可動体が自重で下がると、2 つの可動体の間に隙間が形成されてしまい、装飾部材の見栄えが悪くなるという問題があった。」という課題をもってなされたものである。

【 0 0 7 7 】

[特徴 A 1]

第 1 装飾部 (第 1 装飾部 2 5 2 A , 2 5 3 A) と第 2 装飾部 (第 2 装飾部 2 5 2 B , 2 5 3 B) とを有し、前記第 1 装飾部に対して前記第 2 装飾部が自重で落下移動することにより合体状態から分離状態に変化する装飾部材 (左側装飾部材 2 5 2 と右側装飾部材 2 5 3) を備えた遊技機 (遊技機 1 0) であって、

前記合体状態において前記第 2 装飾部のずり落ちを抑制する合体保持機構 (第 1 回動部材 2 1 0 と第 2 回動部材 2 2 0 と引張りバネ 2 1 3) を有する遊技機。

【 0 0 7 8 】

本特徴に示す構成では、合体状態において第 2 装飾部のずり落ちが抑えられる。これにより、合体状態において、第 1 装飾部と第 2 装飾部の間に隙間が形成されることが抑えられ、装飾部材の外観不良が抑制される。

【 0 0 7 9 】

[特徴 A 2]

特徴 A 1 に記載の遊技機において、

前記合体保持機構は、駆動源 (駆動源 2 1 0 K) により駆動されて前記第 2 装飾部を押し上げることにより前記装飾部材を前記分離状態から前記合体状態に復帰させる押上部材 (第 1 回動部材 2 1 0 と第 2 回動部材 2 2 0) と、前記合体状態において前記押上部材を上側に付勢する付勢手段 (引張りバネ 2 1 3) とを備える遊技機。

【 0 0 8 0 】

本特徴に示す構成では、押上部材を付勢手段によって上側に付勢することで、第 2 装飾部のずり落ちが抑えられる。

【 0 0 8 1 】

[特徴 A 3]

特徴 A 2 に記載の遊技機において、

前記合体状態において前記第 1 装飾部が上側に移動することを許容する移動許容手段（吊上げバネ 2 5 5）を有する遊技機。

【0082】

本特徴に示す構成では、第 1 装飾部と合体した第 2 装飾部をさらに上側に押し上げるのが可能となるので、第 1 装飾部と第 2 装飾部を確実に合体させることが可能となる。

【0083】

[特徴 A 4]

特徴 A 3 に記載の遊技機において、

前記付勢手段と前記移動許容手段とは共にバネで構成され、

前記移動許容手段を構成するバネのバネ定数が前記付勢手段を構成するバネのバネ定数がより小さくなっている遊技機。

【0084】

本特徴に示す構成では、第 1 装飾部と合体した第 2 装飾部を押上部材によってさらに上側へ押し上げるときの駆動源の負荷を低減可能となる。

【0085】

[特徴 A 5]

特徴 A 4 に記載の遊技機において、

前記第 1 装飾部は、自重によって上端位置から下端位置へ移動可能に構成され、

前記移動許容手段は、前記第 1 装飾部を上側に付勢する引張りバネで構成されている遊技機。

【0086】

移動許容手段を構成するバネは、圧縮バネであっても引張りバネであってもよいが、本特徴に示す構成のように、引張りバネで構成すれば、圧縮バネで構成したときよりも、駆動源の負荷を低減可能となる。

【0087】

[特徴 A 6]

特徴 A 2 乃至 A 5 のうち何れか 1 に記載の遊技機において、

前記合体状態において前記装飾部材に近接配置される別の装飾部材（中央装飾部材 2 2 5）をさらに有し、

前記押上部材は、前記別の装飾部材を支持して、前記別の装飾部材を前記装飾部材の近くに配置する上側近接位置（図 1 1（A）に示される第 1 回動部材 2 1 0 と第 2 回動部材 2 2 0 の位置）と、前記別の装飾部材を前記装飾部材から下方に離れた位置に配置する下側離間位置（図 1 2 に示される第 1 回動部材 2 1 0 と第 2 回動部材 2 2 0 の位置）と、の間を移動可能に構成され、

前記装飾部材は、前記押上部材が前記上側近接位置に配置されたときに前記合体状態となり、前記押上部材が前記下側離間位置に配置されたときに前記分離状態となる遊技機。

【0088】

本特徴に示す構成では、装飾部材に近接配置される別の装飾部材が下方に離れることで、演出の趣向性の向上が図られる。また、本構成では、押上部材が別の装飾部材を装飾部材に対して移動可能に構成されているので、別の装飾部材を装飾部材に対して移動させるときに、装飾部材を合体状態と分離状態に変化させることが可能となる。

【0089】

[特徴 A 7]

特徴 A 1 乃至 A 6 のうち何れか 1 の請求項に記載の遊技機において、

落下する前記第 2 装飾部を予め設定された落下位置に位置決めする位置決め機構（当接突片 2 5 2 T，2 5 3 T と当接規制壁 2 5 2 H，2 5 3 H）を有する遊技機。

【0090】

本特徴に示す構成では、落下移動した第 2 装飾部が予め設定された落下位置で受け止められるので、分離状態の装飾部材の外観の安定化が図られる。

10

20

30

40

50

【 0 0 9 1 】

[特徴 A 8]

特徴 A 7 に記載の遊技機において、

前記第 2 装飾部は、前記第 1 装飾部の下端部に回動可能に支持され、

前記位置決め機構は、前記第 2 装飾部の回動軸部から前記第 1 装飾部側に張り出した当接突片（当接突片 2 5 2 T , 2 5 3 T ）と、前記第 1 装飾部に設けられ、前記分離状態で前記当接突片と当接して前記第 2 装飾部の回動を規制する当接規制壁（当接規制壁 2 5 2 H , 2 5 3 H ）と、からなる遊技機。

【 0 0 9 2 】

本特徴に示す構成によれば、簡易な構成で第 2 装飾部を予め設定された落下位置に位置決めすることが可能となる。

10

【 0 0 9 3 】

[特徴 A 9]

装飾部の一部（第 2 装飾部 2 5 2 B , 2 5 3 B ）が自重で落下移動することにより合体状態から分離状態に変化する装飾部材（左側装飾部材 2 5 2 と右側装飾部材 2 5 3 ）を備えた遊技機（遊技機 1 0 ）であって、

前記合体状態において前記装飾部の一部のずり落ちを抑制する合体保持機構（第 1 回動部材 2 1 0 と第 2 回動部材 2 2 0 と引張りバネ 2 1 3 ）を有する遊技機。

【 0 0 9 4 】

本特徴に示す構成では、合体状態において装飾部の一部のずり落ちが抑えられる。これにより、合体状態において、装飾部材に隙間が形成されることが抑えられ、装飾部材の外観不良が抑制される。

20

【 0 0 9 5 】

[特徴 A 1 0]

特徴 A 9 に記載の遊技機において、

前記合体保持機構は、前記合体状態で前記装飾部の一部を下側から受け止め可能な受止部材（第 1 回動部材 2 1 0 と第 2 回動部材 2 2 0 ）と、前記受止部材を上側に付勢する付勢手段（引張りバネ 2 1 3 ）と、を備える遊技機。

【 0 0 9 6 】

本特徴に示す構成では、受止部材を付勢手段によって上側に付勢することで、装飾部の一部のずり落ちが抑えられる。

30

【 0 0 9 7 】

なお、特徴 A 9 , A 1 0 に示す構成に、特徴 A 3 ~ A 8 に示す構成が組み合わされてもよい。

【 符号の説明 】

【 0 0 9 8 】

1 0 遊技機

1 1 遊技盤

2 0 0 上部可動役物ユニット

2 0 1 上部固定ベース

2 1 0 第 1 回動部材

2 1 3 アシストバネ

2 2 0 第 2 回動部材

2 2 5 中央装飾部材

2 5 0 カバー部材

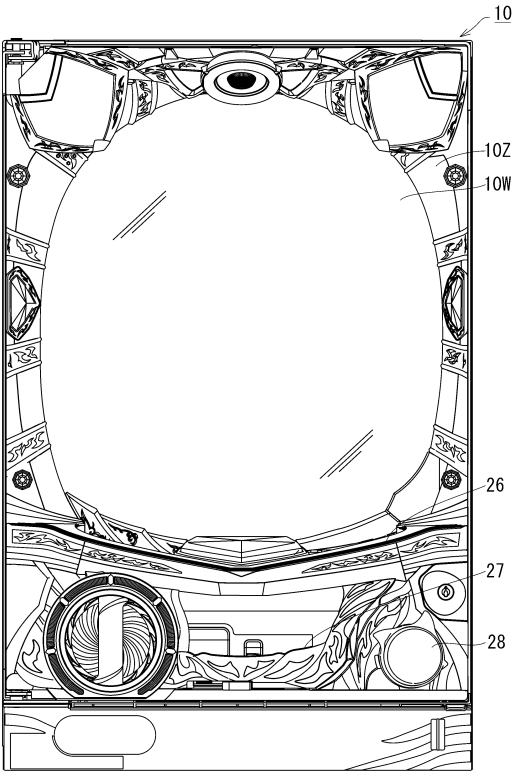
2 5 2 左側装飾部材

2 5 3 右側装飾部材

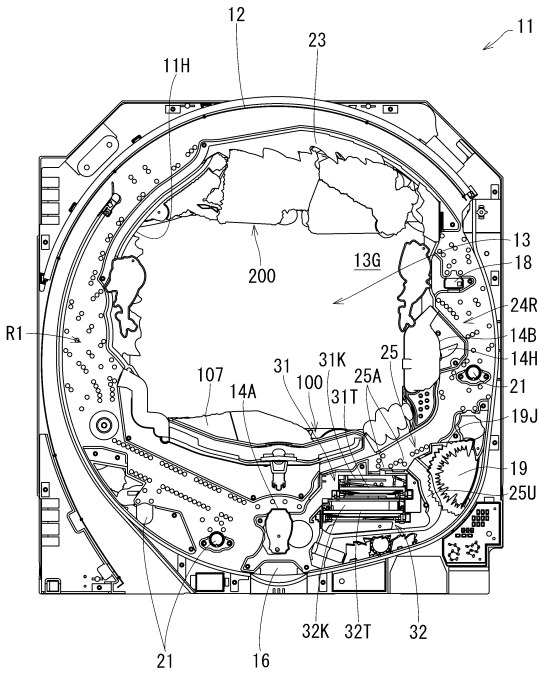
2 5 5 吊上げバネ

40

【図面】
【図 1】



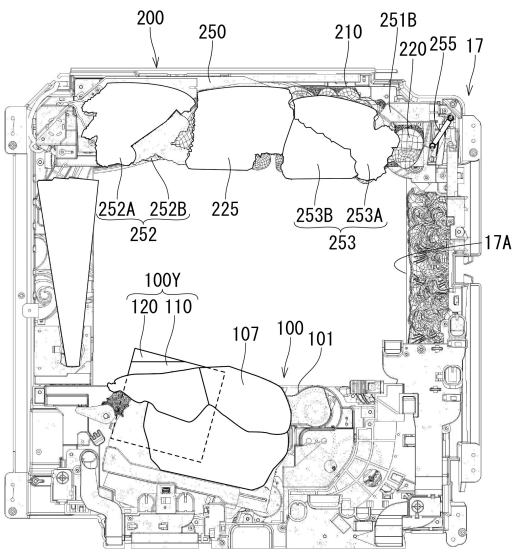
【図 2】



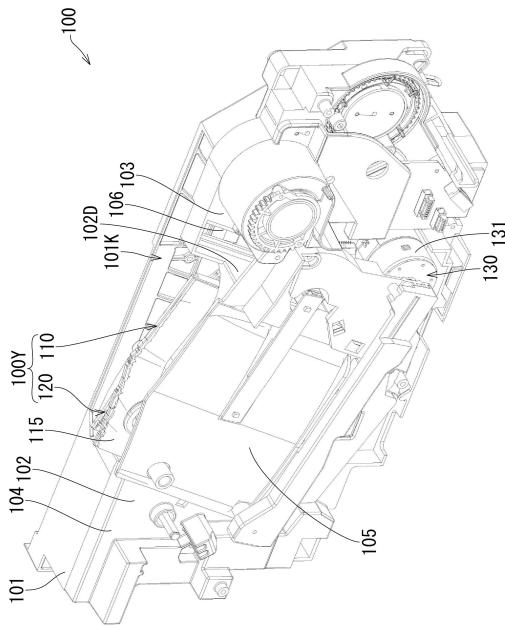
10

20

【図 3】



【図 4】

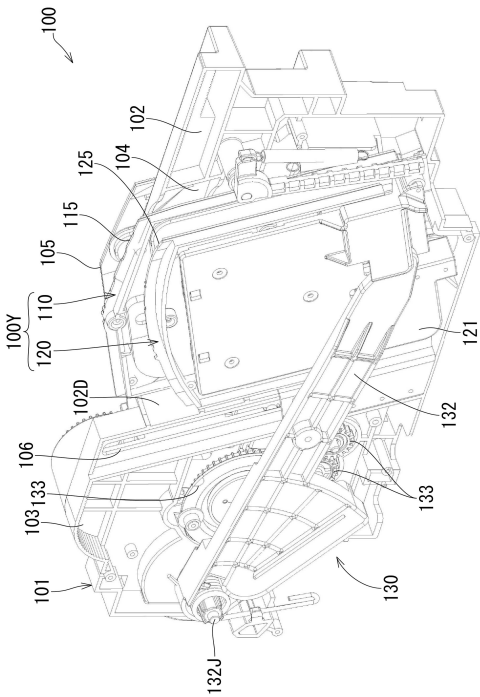


30

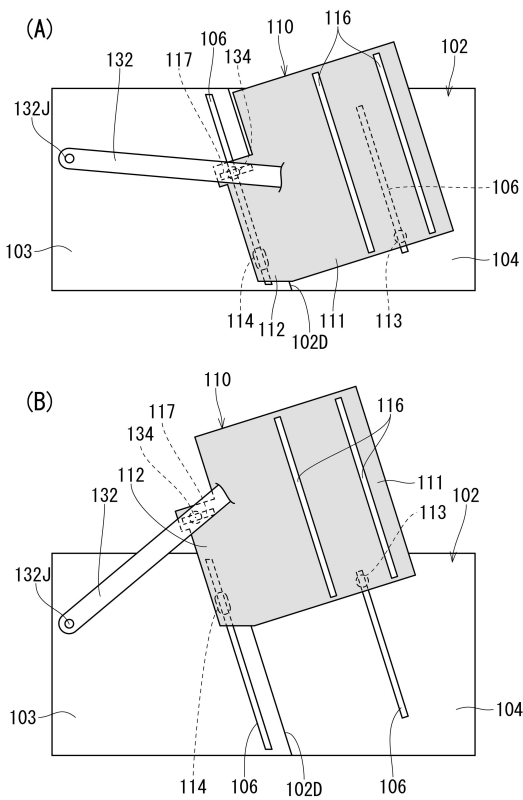
40

50

【図 5】



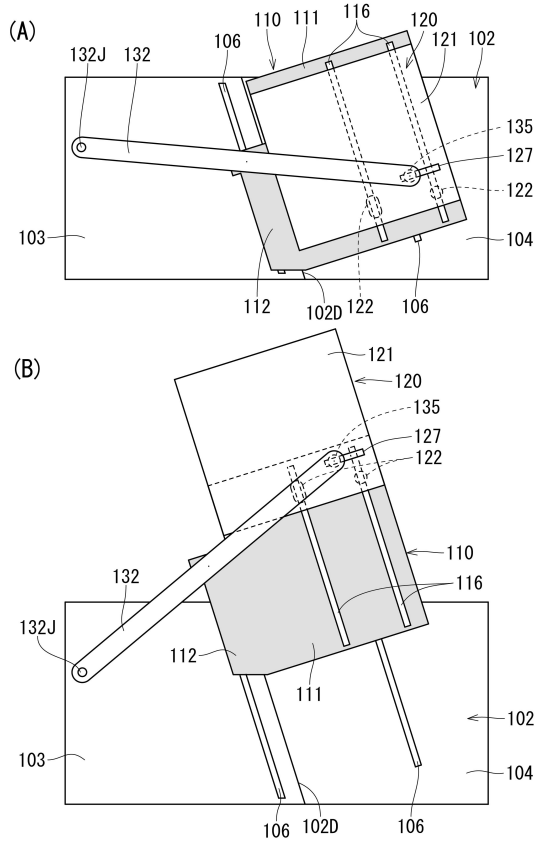
【図 6】



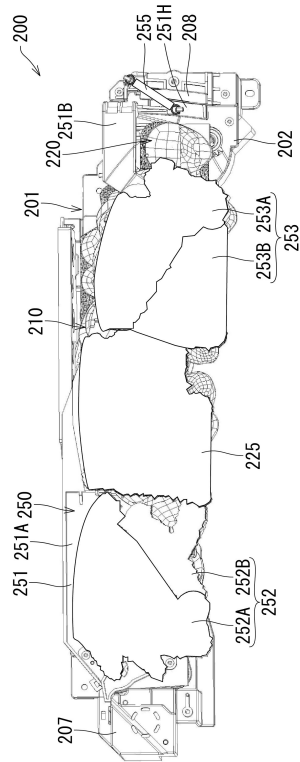
10

20

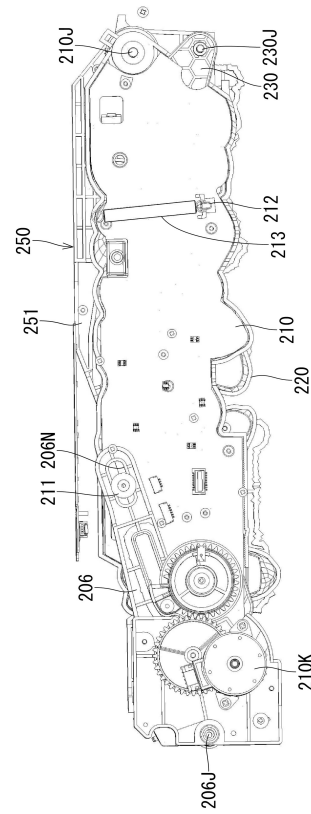
【図 7】



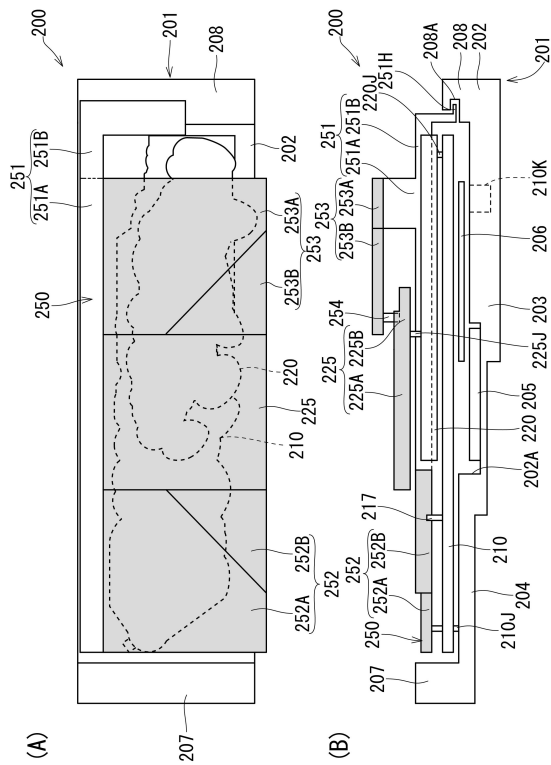
【 図 9 】



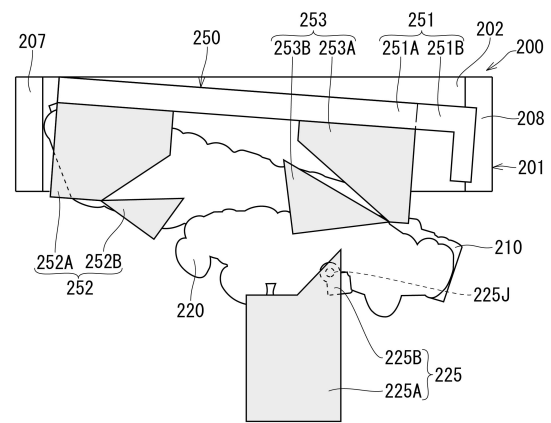
【 図 1 0 】



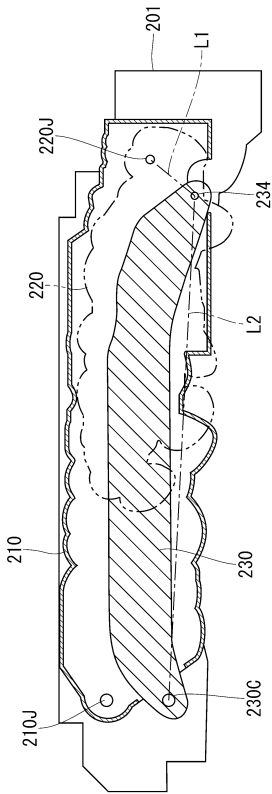
【 図 1 1 】



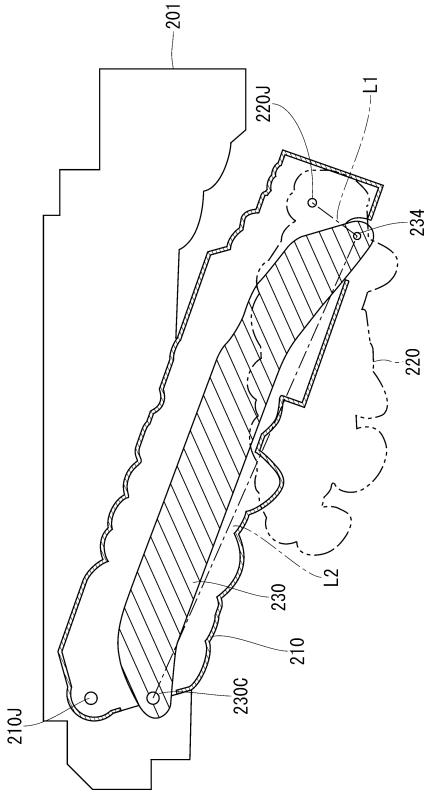
【圖 1 2】



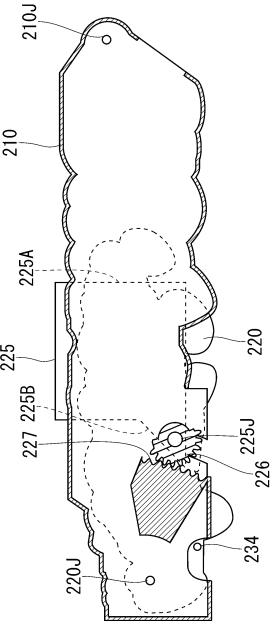
【図 1 3】



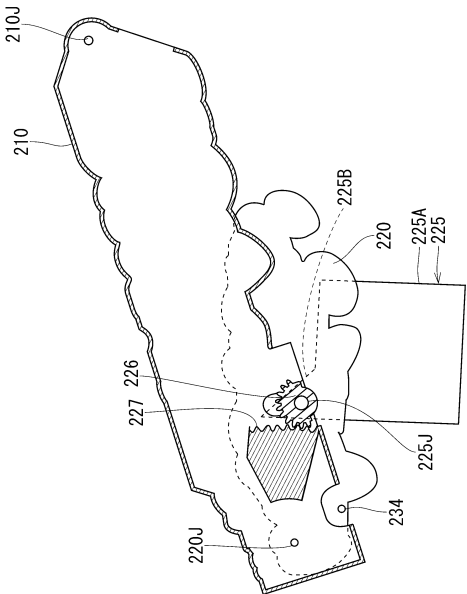
【図 1 4】



【図 1 5】



【図 1 6】



10

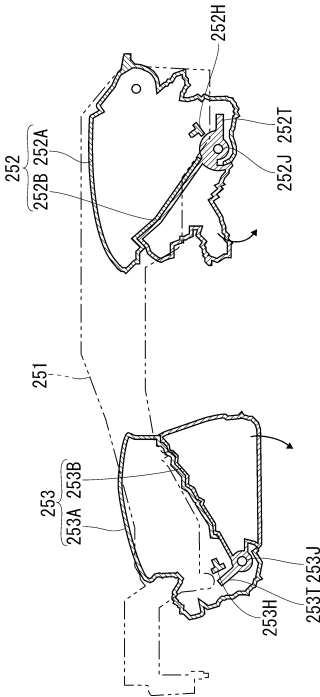
20

30

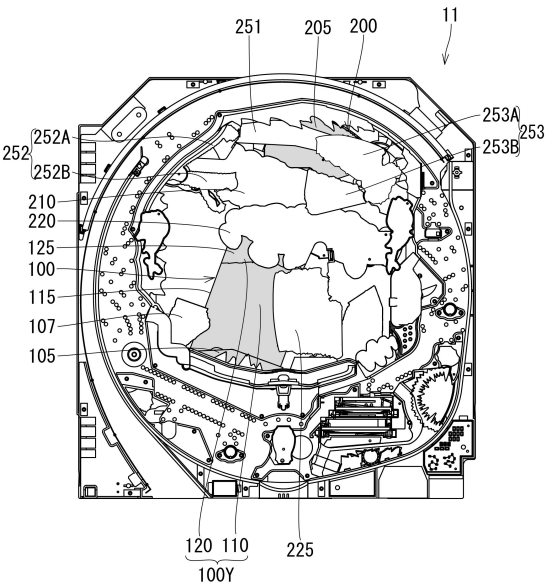
40

50

【 図 1 7 】



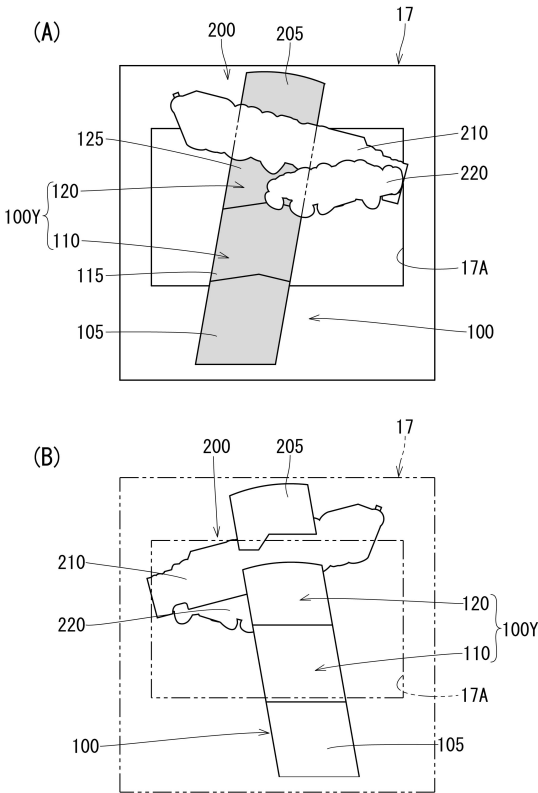
【 図 1 8 】



10

20

【 図 1 9 】



30

40

50

フロントページの続き

ディ内

審査官 中村 祐一

- (56)参考文献 特開 2 0 1 5 - 0 0 6 4 9 4 (J P , A)
特開 2 0 1 4 - 0 9 7 3 7 5 (J P , A)
特開 2 0 0 7 - 0 2 9 4 2 0 (J P , A)
特開 2 0 1 7 - 0 2 9 7 8 9 (J P , A)
特開 2 0 1 6 - 1 7 9 2 7 9 (J P , A)
特開 2 0 1 6 - 0 6 7 3 9 5 (J P , A)
- (58)調査した分野 (Int.Cl. , D B 名)
A 6 3 F 7 / 0 2
A 6 3 F 5 / 0 4